

## 2017年度特定研究奨励金 報告書

### 報告者所属・氏名

所属	香雪記念資料館	氏名	中村 玲
----	---------	----	------

### 奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

2017年度特定研究奨励金助成をいただき、研究課題「江戸前期の表絵師の画業に関する基礎的研究」に取り組んだ。本課題は、江戸時代前期の画壇を牽引した狩野探幽（1602－74）ら奥絵師を中心とする江戸狩野派の実態を、表絵師（奥絵師に次ぎ、彼らの補佐や寺社等の御用を勤めた絵師）の動向に注目しながら明らかにすることを目指したものである。主に、江戸前期の表絵師における重鎮であった勝田竹翁（生没年不詳）や、竹翁の師・狩野長信（1577－1654）の子で竹翁と合作も行った昌信（1621－88）、清信（1641－1717）らの調査に焦点を当てた。

彼らの画業について分析を試み、同時期に活躍した奥絵師や表絵師の活動と比較検討するため、竹翁筆《禽鳥図屏風》、益信（表絵師）筆《寒山拾得図》、探幽筆《観音雲龍図》、尚信（奥絵師）筆《富嶽図》（いずれもドイツ・ケルン市立東洋美術館）、竹翁筆《破墨山水図》（個人蔵）、昌信筆《天神図》、安信（奥絵師）筆《鷺図》（いずれも東京藝術大学大学美術館）、清信筆《黒馬図》（護国寺）等の絵画の実見調査、落款・印章等の基礎的なデータの収集・分析、関連する文献資料の調査等を行った。

上記の調査の結果、まず竹翁作品の一部に見られる瀟洒な画風は、探幽周辺の影響を強く受けたものと考えられるが、面貌や線、立体感を表す濃厚な着彩表現などは、他の絵師には見られない独自の手法を試みていることが確認できた。また、竹翁は昌信・清信を含む他の表絵師よりも画技が熟達していると思われ、彼の先祖が徳川家所縁の三河国出身であることから、幕府やそのブレンとして江戸幕府の学問を司った林家周辺に重用されたのではないかという考えに至った。これらの研究成果については、題目「江戸幕府における狩野派表絵師・勝田竹翁の絵画制作について」として口頭発表を行った（「日本史談話会研究集会」、2018年2月17日、於筑波大学）。2018年度内には論文にて成果の一部を公表する予定である。